

昭和58年度北海道に発生した森林害虫

北海道森林昆虫談話会

(1984. 3. 26受理)

1 害虫の発生状況

北海道林務部、北海道営林局、各営林支局、北海道林木育種場、そのほか学校林など、山林所有者からの同定依頼、被害報告ならびに北海道立林業試験場、林業試験場北海道支場の観察・調査を

もとにして、昭和58年度に北海道に発生した森林害虫の発生状況を第1回の森林昆虫・病理・野ネズミ談話会の合同行事（第19回北海道森林昆虫談話会、昭和59年3月9日～10日開催）でとりまとめた（表～1）。

表-1 昭和58年度森林害虫発生概要

害虫名	樹種	発生地(面積ha)	備考
スギノハダニ	スギ		54年に道南地方で多発しているが、そのごの発生報告はない。
トドマツノハダニ	アカエゾ	当別林務署(江別市2.00)	幼齡造林地
ヒメカサアブラムシ	トドマツ アカエゾ エゾマツ		各地の幼齡造林地、苗畑などで散見される。
エゾマツカサアブラムシ	エゾマツ	札幌市	報告はないが各地の幼齡造林地で発生しているほか、苫小牧市、標津町などでは壯齡造林木に寄生しているのが観察されている。
カラマツカサアブラムシ	グイマツ カラマツ	札幌市	被害木の針葉は成虫の分泌した綿状の白色ロウ質で覆われる。
トドマツオオアブラムシ	トドマツ	北海道局(1,796.47) 函館支局(70.00) 旭川支局(131.23) 北見支局(1.02) 道有林(1,095.00) 民有林(1,241.00) 計(4,334.72)	防除面積 北海道局(1,652.49ha) 函館支局(286.00) 道有林(1,095.00) 民有林(1,175.15) 計(4,208.64)
エゾマツオオアブラムシ	アカエゾ エゾマツ	北海道局(938.80) 旭川支局(411.98) 北見支局(3.48) 帯広支局(72.80) 道有林(225.52) 民有林(191.44) 計(1,844.02)	防除面積 北海道局(735.45ha) 帯広支局(72.80) 道有林(153.78) 民有林(166.94) 計(1,128.97)

カラマツオオアブラムシ	カラマツ	苫小牧署(苫小牧市10. 12)	10. 12ha 防除
トドマツノタマバエ	トドマツ		報告はないが大平洋岸に面した造林地で散見される。
スギタマバエ	スギ		道南地方の造林地のほぼ全域で認められる。
マツバノタマバエ	クロマツ	江差町, 七飯町	森町以南の海岸林で分布しているのが確かめられている。砂坂では生息密度は減少しているが, 七飯町で比較的密度の高い所が観察されている。
エゾマツノシントメタマバエ	アカエゾ	札幌市	
クリタマバチ	クリ	余市町, 美唄市	そのほか道南地方の各地で散見される。
エゾマツハバチ	アカエゾ	江別市	昭和52年に多発し防除が行われた。その後被害を起すような発生はみられないが, 小密度で生息している。
カラマツキハラハバチ	カラマツ	振内署 (115.09) 池田林務署 (豊頃町299.00) 大樹町 46.00) 釧路町 (5.64) 厚岸町 (123.00)	そのほか道央, 道東の造林地に散見される。
カラマツハラアカハバチ	カラマツ	苫小牧林務署(追分町77.00) 早来町 373.96 追分町 20.60 厚真町1,729.72 鷓川町 274.20 穂別町 337.36 苫小牧市 120.44 計 2,933.28	防除面積 苫小牧林務署 (77.00ha) 早来町 (294.68) 厚真町 (833.48) 鷓川町 (274.20) 穂別町 (182.16) 苫小牧市 (120.24)
オオアカズヒラタハバチ	ヨーロッパトウヒ	佐呂間町	学校の庭園樹
ドイツトウヒマダラメイガ	アカエゾ	江別市 (1.00)	幼虫は集団で枝に鳥巢状の巣をつくり, 葉を食害, 巢内で蛹化, 7月上旬に成虫となる。
マエアカスカシノメイガ	ヤチダモ	長沼町	防風林
メイガの1種	カシワ	石狩町	ドングリを加害
ツマクロテンヒメハマキ	トドマツ	江別市	球果を加害, 寄生割合も多く, 道林試で生態を調査している。
トウヒヒメハマキ	ヨーロッパトウヒ	八雲署 (3.94)	被害木は点状, 梢頭部を加害, 幼虫は針葉をつづって食害。
トウヒツヅリハマキ	トドマツ	札幌市	新梢を加害 (霜害に似る)
マツヒメハマキ	ストローブマツ	苫小牧署	(マツノクロマダラヒメハマキ)

カラマツヒメハマキ	カラマツ	札幌市	そのほか各地のカラマツ林にみられる。
コスジオビハマキ	トドマツ	中富良野町 (1.56)	
トウヒオオハマキ	トドマツ	東神楽町 (7.80)	
トドマツアミメハマキ	トドマツ	美深林務署(美深町0.32)	
カラマツイトヒキハマキ	カラマツ	釧路署	(採種園) そのほか各地のカラマツ林にみられる。
コメツガクチブサガ	トドマツ	札幌署 (厚田村123.65) 当別町 5.26) 旭川署 (旭川市 31.22) 鷹栖町 10.50) 留萌署 (留萌市127.60) 岩見沢林務署 (月形町269.00) 計 (567.23)	幼虫は新葉を食害する。被害木は7月上旬に梢頭より褐変してくる。遠望ではハマキガ類の被害跡に似るが、食害された新梢の髄部は下垂しない。また幼虫は旧葉の下部に長さ8mmくらい、白色紡錘形のまゆをつくり蛹になることから区別できる。
カラマツツツミノガ	カラマツ	札幌市	報告はないが、場所によって小発生的な様相をしていたカラマツ林がみられた。
ミスジツマキリエダシャク	カラマツ	早来町 (103.48) 旭川市 (12.92) 東神楽町 (2.64) 美瑛町 (81.40) 計 (200.44)	当年はシャクガ類の発生が目立ち、次の2種も混じてカラマツを食害している。
オオトビスジエダシャク	カラマツ		
マツオオエダシャク	カラマツ		
ナミスジフユナミシャク	広	早来町 美深町	そのほか道北地方で大発生しており、シナノキ全葉、イタヤカエデ、ミズナラ、カンパ類を食害している。
マイマイガ	カラマツ	東神楽町 (11.64) 美瑛町 (5.16)	
ヤナギドクガ	ポブラ	栗山町	発生数は少ない。
ブナアオシャチホコ	ブナ		56~57年に道南地方で10,000 ha以上の発生をしているが、当年の発生報告はない。
マツカレハ	マツ類	札幌市	巢木的であるが庭園樹など高密度発生をしているものがある。
ツガカレハ			当年の発生報告はないが、この種は51~52年に道央地方で大発生、およそ10年おきに大発生していることから、今後のうごきに注目している。
スジコガネ	トドマツ他	札幌市	
ハンノキハムシ	ハンノキ	芦別署 (13.00) 蘭越町 (3.00)	

アカタマゾウムシ	ヤチダモ	北見署 (常呂町44.56) 岩見沢署 (長沼町10.00)	
スギノアカネトラカミキリ	スギ	松前林務署 (松前町9.00)	間伐および枯枝の加害孔道より推定
シラフヨツボシヒゲナガ カミキリ	エゾマツ	苫小牧署 (62.93)	造林木, 昭和56年風害跡地
トドマツククイムシ	トドマツ	苫小牧署 (1.33)	そのほか各地の天然林に散見
ヤツバククイムシ	エゾマツ アカエゾ	苫小牧署 (エゾマツ44.68) 中頓別署 (浜頓別町 3.60) 美瑛署 (美瑛町 エゾマツ0.15) (アカエゾ0.03) 網走署 (美幌町 エゾマツ14.10) 標津署	苫小牧署, 人工林 中頓別署, エゾマツ, 天, 80本 美瑛署, エゾマツ, 天, 25本 アカエゾ, 天, 6本 網走署, 人工林, 間伐跡地 標津署, アカエゾ人工林, 伐採跡地 そのほか56年の風害跡地の周辺木が 被害をうけているが, 58年は低温で 経過したことなどから, 被害木は秋 おそくまで緑色を保ち落葉も少ない ことから, 発見がおくれている。
カラマツヤツバククイムシ	カラマツ	苫小牧署 (15.96) 丸瀬布署 (丸瀬布町0.01) 池田林務署 (幕別町0.32) 浦幌林務署 (浦幌町11.00) 穂別町 45m' 鶴居村 40m' 忠類村 5m'	池田林務署200m ² 伐倒搬出 浦幌林務署347m ² 伐倒搬出 防除 早来町 171.03 m ² 厚真町 363.63 鷹栖町 3,900.09 美瑛町 300.00 和寒町 4,800.04 士別市 1,295.47 風連町 2,580.70 名寄市 1,201.64 下川町 4,519.44 東藻琴村 1,007.94 美幌町 1,007.13 鶴居村 30.50 大樹町 500.00 陸別町 509.28 池田町 50.00 本別町 1,007.70 足寄町 1,957.01 浦幌町 1,876.00 計 27,079.60 はく皮焼却および薬剤により防除する。

2 主な害虫の発生動向

苗畑害虫：エゾマツメイガ幼虫やコガネムシ類

の幼虫による苗木の被害が各地でみられるようになってきた。そのほかトドマツノハダニに対する薬剤防除も行われているようであるが, 58年, 苗

畑での被害報告はない。

吸汁性害虫：トドマツノハダニは苗畑のほか、各地の幼齡造林地に発生しているのが観察されている。トドマツオオアブラムシは昭和34年ころから急激に増加しはじめ、39～40年には発生面積が15,000ha、あるいはそれ以上に達した。そのご毎年10,000ha前後の発生をつづけ、最近は減少の傾向を示しており、58年は5,000ha前後の発生となっている。

虫えい害虫：マツバナタマバエは森、江差町を結ぶ線以南の海岸にあるマツ林に寄生分布しているのが認められている。昭和51～53年に多発し、枯損木をも生じた江差町砂坂のクロマツ海岸林ではその生息密度は低下し、林分もかなり回復の様相を示している。エゾマツカサアブラムシの被害報告はないが、苫小牧市、標津町ほか各地のエゾマツ壮齡造林木に寄生していることが観察されている。そのほか幼齡造林木に寄生している所もある。

新梢穿入害虫：ツマクロテンヒメハマキは針葉樹の球果に寄生するほか、トドマツの新梢髓部に穿入加害していることが認められた。被害跡の形状はマツマダラメイガの加害と似ているため、これまで混同視されていた場合もあると推察される。この虫の生態については道立林試で研究が進められている。八雲でヨーロッパトウヒの新梢が枯れる被害があり、枯損の原因は風雪害ではないかと考えられているが、被害木にはトウヒヒメハマキの寄生も認められている。

食葉性害虫：カラマツキハラハバチは57年に大樹町で約4,000ha発生した。58年も豊頃町、厚岸町など十勝・釧路地方の太平洋岸で発生しているが、その発生面積は少ない。カラマツハラアカハバチの発生は長野県では減少傾向にあるようであるが、北海道では胆振東部地方で52年から継続的に発生している。58年も発生面積はやゝ増加し、3,000haに近い発生をしている。オオアカズヒラタハバチの発生は久しくなかったのであるが、佐呂間町の学校々庭にあるヨーロッパトウヒに発生しているのが認められた。上川町ではハイマツにハバチの1種が寄生しているのが観察された。

コメツガクチブサガは57年につづいて留萌・旭川市で発生したほか、厚田・当別・月形町などで発生しているのが認められた。道央ではコスジオ

ビハマキ、トウヒオオハマキ、トドマツアミメハマキなどの発生もある。マイマイガは小発生的なものがここ何年か続いており、58年には東神楽、美瑛町などに発生している。美深町など道北地方の広葉樹林ではシャクガ類が多発し、シナノキ、イタヤカエデ、ミズナラ、カンパ類が食害されている。道央のカラマツ林ではミスジツマキリエダシャクの加害が目立った。この成虫は6月上旬から7月下旬まで出現して、短枝葉上に一粒づつ産卵する。幼虫は7月にも見られるが、8月以降の食害割合が大きく、被害木は秋おそくなって葉を再生する。このため翌年、展葉せずに枯死するものがある。

ツガカレハの発生報告はないが、本種はこれまでおよそ10年周期で大発生が記録されている。前回51年には、本種の発生前年にシャクガ類の大発生がみられた。58年は前述のようにシャクガ類の発生も多いこと、発生周期での多発生年が近づいていることなどから、大発生が予想される道東地方では、本種の個体数の変動について十分に注意する必要がある。

ハンノキハムシは道南地方で毎年発生していたものが石狩低地帯に広がり、さらに北上し全道的に発生が認められるようになった。そのご減少して57年には発生がほとんど認められないまでになったが、58年度は芦別市、蘭越町で小発生がみられた。アカタマゾウムシは常呂町のヤチダモ防風林で発生しているが、58年には長沼町でも発生しているのが確認された。

穿孔性害虫：昭和56年8月、台風の通過により十勝地方を中心に風倒被害が発生した。さらにこの年10月下旬には冠雪害によって上川北部地方にカラマツの折損、幹曲りの被害が発生した。57年はこの風雪害木にキクイムシなど穿孔虫が寄生して、その生息密度の増加が認められ、58年度には残存立木の穿孔虫による被害が予想された。しかしカラマツについては被害木の伐倒搬出が比較的すみやかに行われたこともあって、立木被害の発生は当初に予想したより少ない結果になっている。またエゾマツ・トドマツ天然林の被害については搬出処理などによる防除に加えて、58年夏の気温が異常ともいえる低温で経過したことなどから、立木被害の発生は少ないようである。ただ明らかに穿孔虫の加害をうけている立木であっても

葉色などが変化せず、発見されにくいものがある。
これらの被害立木は58年11月～59年3月の冬期間
には落葉すると推察され、その後に被害が確認さ

れることになると思われる。

(林試北海道支場 小泉 力 記)

昭和58年1～12月中に報告された関係文献

- 1) 秋田米治：雑草除去地でのトドマツオオアブラの移動と地表徘徊性クモ類(1)ートドマツ幼齡造林地ー, 日林北海道支部講31, 136～138
- 2) ————：トドマツオオアブラムシを捕食するクモ類, 森林保護178, 44～45
- 3) ————：林試北支実験林トドマツ幼齡林での造網性クモ類と捕獲昆虫類, 94日林論, 517～518
- 4) 福島 淳：カラマツヤツバキクイの生態と防除, 昭和57年林業技術研究発表大会論文集, 北海道林業改良普及協会, 168～169
- 5) 福山研二・吉田成章：ヤツバキクイムシの飛ばしと温度の関係, 日林北海道支部講31, 146～148
- 6) ————：ツガカレハの発生予察について(予報), 森林保護177, 39～40
- 7) 古田公人・高井正利・舟津忠雄：エゾマツオオアブラによるアカエゾマツの生長低下, 日林誌 65(5), 166～171
- 8) ————・—————：Population dynamics of *Cinara bogdanowi ezoana* INOUE (Hom., Lachnidae) in plantations of *Picea glehnii* MASTERS and *P.jezoensis* CARRIERE, Z. ang.Ent. 95, 238～249
- 9) 北海道森林昆虫談話会：昭和57年度北海道に発生した森林害虫, 北方林業 35(6), 24～28
- 10) 影山勇治：カラマツヤツバキクイの薬剤防除試験, 昭和57年度林業技術研究発表大会論文集, 北海道林業改良普及協会, 166～167
- 11) 鎌田直人・古井戸宏通・吉田成章・高井正利：エゾマツカサアブラ (*Adelges japonicus* MONZEN) のゴールの大きさを決めるものは何か, 94日林論, 509～510
- 12) 上条一昭・駒井古実・鈴木重孝：ハマナスを加害する害虫, 光珠内季報 55, 17～21
- 13) 菅藤雅克：カラマツハラアカハバチの発生の広がり被害枯損木の実態, 北方林業 35(10), 13～17
- 14) ————・佐藤順市：カラマツハラアカハバチの発生と被害木の実態, 昭和57年度林業技術研究発表大会論文集, 北海道林業改良普及協会, 174～176
- 15) 小泉 力・秋田米治・福山研二・吉田成章：風倒地でのフェロモンによるヤツバキクイムシ誘殺試験(Ⅱ)ー1982年5～7月・十字型試験地ー, 日林北海道支部講31, 142～143
- 16) ————・—————・吉田成章・福山研二：風倒地でのフェロモンによるヤツバキクイムシ誘殺試験(Ⅲ)ー1982年7～9月・十字型試験地ー, 日林北海道支部講31, 144～145
- 17) ————：トドマツ・エゾマツ天然林の穿孔虫害, 空沼天然林施業実験林報(Ⅶ) 北海道営林局, 235～244
- 18) ————・上条一昭：トドマツ・カラマツ造林地の害虫, 北方林業 35(9) 5～10
- 19) 河野耕蔵・織田春紀：エゾマツの産地および母樹間におけるエゾマツカサアブラに対する感受性, 日林北海道支部講31, 133～135
- 20) 松崎 健・高橋郁雄・芝野博文・宮森吉次：風害翌年の東京大学北海道演習林におけるエゾマツのヤツバキクイムシの加害状況, 日林北海道支部講 31, 130～132
- 21) 佐藤邦彦：森林保護雑記ー3ー, 森林保護, 174, 9～11
- 22) 鈴木重孝・東浦康友：道有林におけるハマキガ類の発生状況, 光珠内季報 55, 22～23
- 23) ————：カラマツヤツバキクイの繁殖に及ぼす密度の影響, 北海道林業試験場報告 21, 89～94
- 24) 田中 潔・松崎清一：ダケカンパ材のビスレック, 日林誌 65(7), 262～267
- 25) 高井正利・吉田成章：エゾマツカサアブラムシの造林地での分布の拡大, 林試北海道支場年報1982, 91
- 26) 寺崎幸夫・南雲 修・福山研二・吉田成章・小泉 力：カラマツヤツバキクイムシ密度と加害性, 樹木の衰弱度との関係, 94日林論 503～504
- 27) 富樫則夫・浜田 満・諏佐正実・鈴木 正：雪害跡地におけるカラマツヤツバキクイの発生消長, 昭和57年度林業技術研究発表大会論文集, 北海道林業改良普及協会 170～171
- 28) 渡辺洋之・西岡利忠・吉崎喜吉・藤江一男：アブラムシ防除器具の考案について, 昭和57年度業務研究発表集録, 北海道営林局, 137～141
- 29) ————・—————・藤江一男：アブラムシ防除器具の考案について, 森林保護, 176, 29～30
- 30) 吉田成章・福山研二・小泉 力・秋田米治・山根明臣：風倒地でのフェロモンによるヤツバキクイムシ誘殺試験(1)ー1982年5～7月：格子状試験地ー, 日林北海道支部講31, 139～141
- 31) ————・—————・—————・—————・池田俊弥：風倒地でのフェロモンによるヤツバキクイムシ誘殺試験(Ⅳ)ー1982年7～9月・格子状試験地ー, 94日林論, 505～506
- 32) 山口博昭：トドマツオオアブラの林業的防除に関する調査研究ー虫害からみた森林施業のあり方を求めてー, 空沼天然林施業実験林報(Ⅶ) 245～251